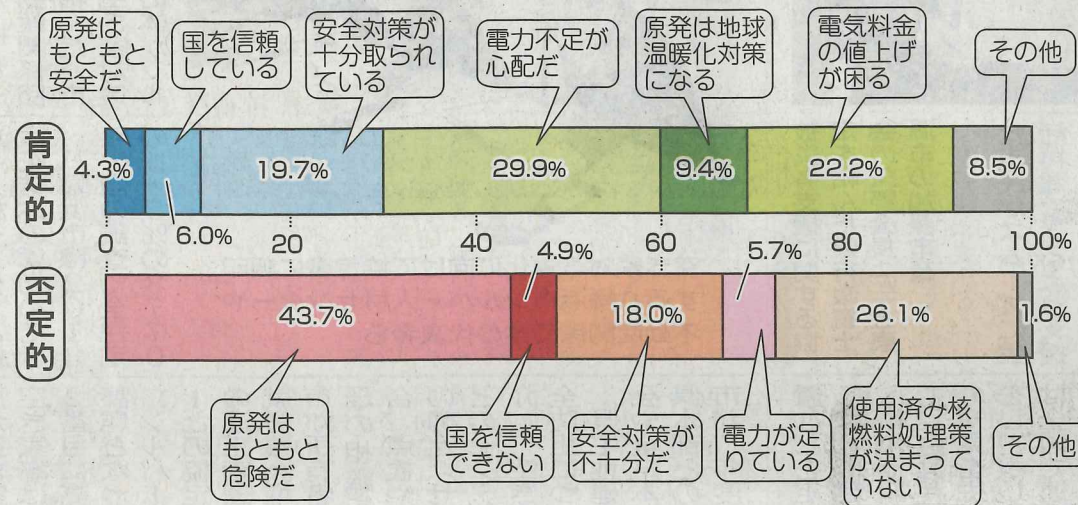


伊方原発 再稼働問題

再稼働 不安じわり

伊方原発再稼働の是非に対する理由



伊方原発3号機の再稼働の是非に対する理由は、肯定的な意見では「電力不足が心配だ」が29.9%と最も多く、「電気料金の値上げが困る」22.2%、「安全対策が十分取られている」19.7%と続いた。その他(8.5%)では「安全ならば有効に利用すべきだ」「不安はあるが、しょうがない」といった意見が記述された。

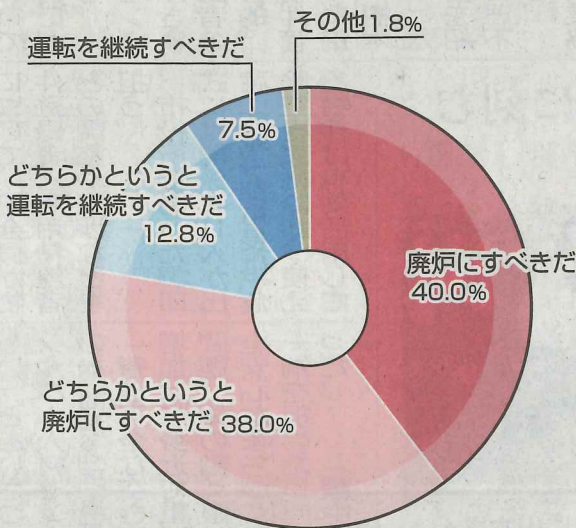
対して否定的な意見では「原発はもと危険だ」が43.7%で最多。「使用済み核燃料処理策が決まっていない」26.1%、「安全対策が不十分だ」18.0%などの順だった。

その他(1.6%)では「地震の可能性が大」など自然災害を不安視する声が目立っている。

是非の理由

否定派 「もともと危険」43%

肯定派 「電力不足心配」29%



伊方原発2号機について

運転35年2号機

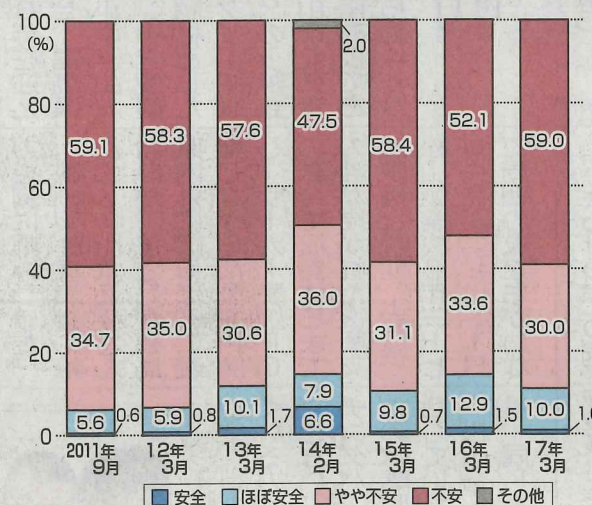
「廃炉に」計78%

1982年の運転開始から19日で35年となる伊方原発2号機については「廃炉にすべきだ」が40.0%、「どちらかという廃炉にすべきだ」が38.0%、合計78.0%に上った。

地域別では、伊方原発が立地する南予の「廃炉にすべきだ」が計82.8%で、県全体を4.8割上回り、東中予で唯一、8割を超えた。県全体で「運転を継続すべきだ」は7.5%、「どちらかという運転を継続すべきだ」は12.8%に計20.3%。四電は2号機に関し再稼働を前提に有効活用する方針で検討している。

安全性

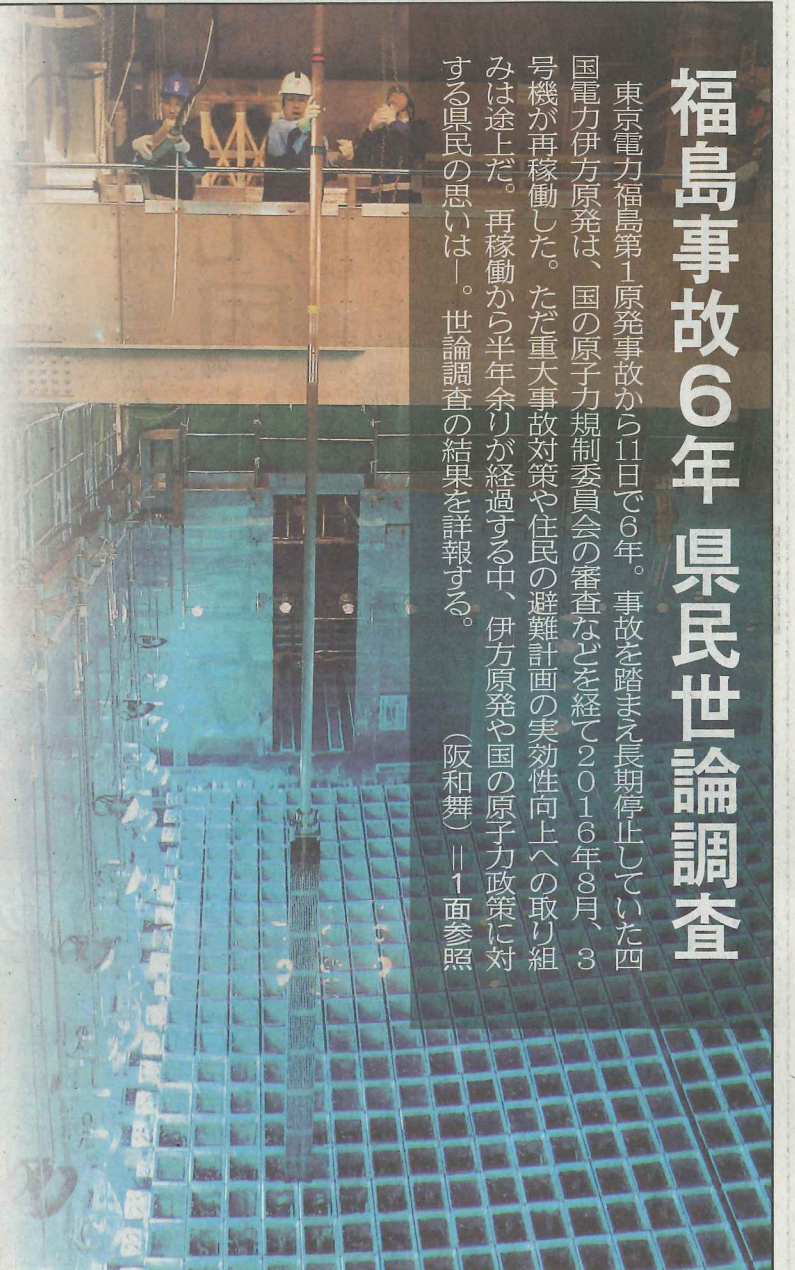
原発の安全性について



原発の安全性については59.0%が「不安」と回答し、「やや不安」の30.0%と合算すると、不安の割合は89.0%に上った。伊方原発3号機が再稼働する前の16年3月の調査での計85.0%から7.0ポイント増加している。

同様の質問をした7回の調査で、「不安」は福島原発事故から半年となる11年9月の59.1%に次いで2番目に高かった。

男女別では、女性の「不安」が62.1%、「やや不安」が28.2%で計90.3%。男性の「不安」55.7%、「やや不安」32.0%の計87.7%を2.6ポイント上回っている。



伊方原発3号機の原子炉に装填(そうてん)するため使用済み核燃料プールから取り出される燃料集合体—2016年6月、伊方町九町(代表撮影)



核のごみ受け入れ

福島事故6年 県民世論調査

東京電力福島第1原発事故から11日で6年。事故を踏まえ長期停止していた四国電力伊方原発は、国の原子力規制委員会の審査などを経て2016年8月、3号機が再稼働した。ただ重大事故対策や住民の避難計画の実効性向上への取り組みは途上だ。再稼働から半年余りが経過する中、伊方原発や国の原子力政策に対する県民の思いは。世論調査の結果を詳報する。

(阪和舞) 11面参照

